

花田っ子きらきら通信

姫路市立花田小学校
文責 校長 内海 行之

「また堂々と戦おうじゃないか」

読書の秋はもう過ぎましたが、紹介したい本があります。「大造じいさんとガン」（作者：椋鳩十）という本で、5年生の国語の教材にも出ています。もう数十年掲載され続けている名作なので多くの保護者の皆様もご自身が5年生の時に国語の授業で学ばれたことと思います。上の見出しの言葉は作品の中に出てくる主人公、大造じいさんの言葉です。

あらすじはと言いますと…

狩人である大造じいさんは雁をしとめようと色々な計略を考えるが、その群れの頭領である残雪の知恵に阻まれ、計略はことごとく失敗に終わってしまう。ある年、生け捕りにした1羽の雁をおとりに使う新たな計略に取りかかる。しかし「今日こそ残雪に一泡」と思った瞬間、思いもよらずハヤブサが襲来。雁の群れは残雪に導かれ難を逃れる。ところがおとりの雁だけは逃げ遅れ、ハヤブサに襲われることに。残雪はそれを放ってはおこななかった。仲間を救おうと引き返し、ハヤブサとの死闘を繰り広げる。その結果、両者は沼地に落下。今度こそチャンスと大造じいさんはそこに駆けつける。しかし、傷を負いながらもまだ必死に戦う残雪、ハヤブサが去った後の第二の敵である自分をにらみつける残雪、最期の時を感じて頭領としての威厳を傷つけまいと振る舞う残雪を目の前にして、大造じいさんは強く心を打たれる。そして、大造じいさんは残雪を一冬保護し、ある春の晴れた朝、おりから逃がしてやる。最後は、飛び去っていく残雪をいつまでも見守る。「おい、がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやつけたかあないぞ。なあ、おい、今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやってこいよ。そうして、おれたちは、また、堂々と戦おうじゃあないか。」と呼びかけながら。 ※「 」内は教科書表記

いかがですか。全文を読んでいただくと、大造じいさんと残雪が好敵手となったことがよくご理解いただけたと思います。さらに大造じいさんの、単なる狩人ではない、それを超えた人としての心の豊かさと残雪の知恵、責任、勇気、強さにあふれた、それぞれの生きざまに感動していただけたと思います。

ところで、この作品紹介をきっかけに、ふと思ったことがあります。子どもたちは、様々な活動（学校の内外に限らない）において、いつも堂々と戦っているだろうか。友だちと競うことのある、普段の遊びや体育の授業・中間体育・金曜日の学級遊び・運動会・音楽会の楽器決め・マラソン大会・縄跳び大会等の場や学級で係や当番・グループ等を決めたりする場で、時に公明さを失っていないだろうか。——このことは我々教師も常に振り返らなければならないことです。

互いの存在を認め合い、堂々と戦ってこそ、互いの信頼は深まり、次への挑戦の意欲も高まるというものです。こう考えると、学校教育において事あるごとにフェアプレーの精神の大切さを子どもたちに説くことは欠かせないことです。ご家庭におかれましても機会をとらえタイムリーにご指導していただければ幸いです。

個人懇談会のお礼

3日間にわたり個人懇談会を催したところ、ご多用にもかかわらずご出席くださり、誠にありがとうございました。中には予定の時刻よりも開始が遅くなってしまった方もいらっしゃるかもしれません。寒い中お待たせしたことをお詫びします。

また一つうれしいお知らせが

広報ひめじ1月号の「27年市政10大ニュース」に学校司書が取り上げられています。その記事の欄に本校の「図書の間」の写真が使われています。小さな写真ではありますが、確かに花田っ子の写真です。